

アスパラガス半促成長期どり作型における 夏季追加立茎栽培法

アスパラガスの半促成長期どり栽培において、年間収量の約60%を占める夏芽は、異常茎の発生などによる品質低下が起りやすく、単価が安い傾向にあります。また、夏場の収穫・管理作業は農家への負担が大きく、管理不足等により、茎葉の日焼けや病害の発生が原因となって夏芽のみならず翌年の春芽まで影響し、収益の減少が見られます。そこで、長崎県農林技術開発センターでは、夏場の労働改善と高単価となる翌年の春芽が増収する夏季追加立茎栽培法を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 夏季追加立茎法は、8月から畝1m当たり約20本を追加立茎し（総立茎本数は30本/m）、その後45日間の収穫・かん水・茎葉管理作業を週1回に制限する栽培法です（図1）。
2. 夏芽後半（8～10月）の収量は8割程度減少しますが、翌年の春芽（2～4月）および夏芽前半（5～7月）は増収し、年間可販収量は慣行法と同等となります。また、夏季追加立茎法により、春芽収穫開始が1週間から10日程度早まります。
3. 翌年の春芽の平均1本重が増加し、年間のL以上（太物）の割合が1～2割増加します。
4. 夏芽後半の収益は減少しますが、翌年の春芽および夏芽前半の収益がより増加するため、年間収益は約15,000円/a増加します（表1）。
5. 収量が増加する2月から7月までの労働時間は増えますが、高温で作業環境が悪い8月以降の労働時間は79時間/10a減らすことができます（表2）。

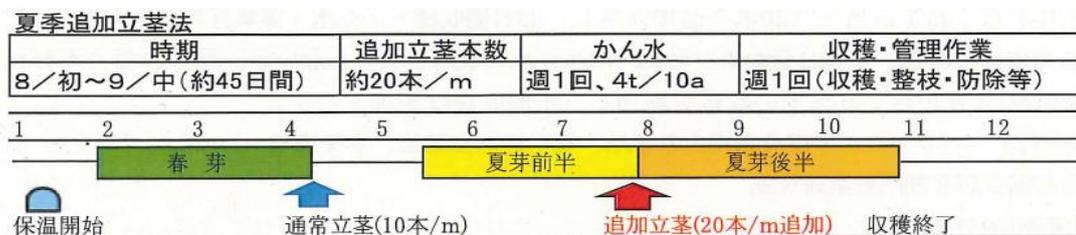


図1 夏季追加立茎の栽培体系

表1 販売金額の試算（円/a）

	夏芽後半 (8～10月)	春芽 (2～4月)	夏芽前半 (5～7月)	年間合計
平均単価(円/kg)	774	1,292	929	998
追加立茎区	9,173	104,391	76,799	190,363
慣行区	47,166	70,642	57,863	175,671

表2 労働時間削減効果の試算
(時間/10a)

	夏芽後半 (8～10月)	春芽 (2～4月)	夏芽前半 (5～7月)	年間合計
収穫出荷	-60	+35	+43	18
かん水	-12	0	0	-12
栽培管理	-7	0	0	-7
合計	-79	+35	+43	-1

☆ 活用面での留意点

1. 長崎県をはじめとする西南暖地のアスパラガス産地に普及が見込まれます。
2. 詳しいことは、長崎県農林技術開発センター（TEL:0957-26-3330）にお問い合わせください。
（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）